

群馬県環境基本計画2021-2030 中間見直し(案)の概要について

2025.12.26(金)
群馬県環境政策課

「群馬県環境基本計画2021-2030」中間見直し(案)の概要

中間見直しの趣旨

環境基本計画は、「群馬県環境基本条例」に基づいて策定している環境分野の最上位計画です。2021(令和3)年3月に「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」を将来像として掲げた第4次となる「群馬県環境基本計画2021-2030」(第4次計画)を策定していますが、今年度末で策定から5年(中間年)が経過するため、社会情勢など環境の変化に対応した見直しを行います。

計画期間

2021(令和3)年度から2030(令和12)年度までの10年間

計画の構成

※計画期間、構成の章立ては変更なし

第1章 計画の基本的事項

第2章 計画の基本方向

第3章 群馬県が目指す将来像と計画の基本的目標

【2040年に向けた群馬県の環境の将来像】

豊かで持続的に発展する環境県ぐんま

第4章 施策体系

【施策の柱(4本柱)】

- 1 地球温暖化対策の推進
- 2 持続可能な循環型社会づくり
- 3 自然との共生と森林(もり)づくり
- 4 安全・安心で快適な生活環境づくり

第5章 施策・事業の展開

第6章 進行管理

資料編

見直しのポイント

- ・ 2040年の将来像(ビジョン)、2030年に目指す目標の新設
- ・ 取組の方向性として横断的な要素を整理
- ・ 各主体の役割の整理と事業テーマ及び指標(KPI)の見直し

主な変更点

主な変更点

・2040年の将来像(ビジョン)



計画の変更箇所(章)

第3章 群馬県が目指す将来像と
計画の基本的目標

・2030年に目指す目標
・取組の方向性及び各主体の役割



第4章 施策体系

・事業テーマ及び指標(KPI)
・県の取組内容



第5章 施策・事業の展開

・各主体の役割及び実施方法



第6章 進行管理

「群馬県環境基本計画2021-2030」中間見直し 体系図(全体)

	2030年中間目標	2040年の将来像(ビジョン)	環境の将来像
<div>柱1</div> <div>地球温暖化対策の推進</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高効率エネルギー設備導入や断熱対策などによる徹底した省エネルギー ● 地域資源を最大限活用した再生可能エネルギー設備導入 ● 省エネ活動の啓発強化 	<div>◎脱炭素化が進んだぐんま</div>	<div>豊かで持続的に発展する環境県ぐんま</div>
<div>柱2</div> <div>持続可能な循環型社会づくり</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 5Rの取組啓発の充実 ● あらゆる分野の資源循環の研究開発の進展 ● MOTTAINAI運動の浸透 	<div>◎循環と連携のぐんま</div>	
<div>柱3</div> <div>自然との共生と森林（もり）づくり</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 林業経営の充実 ● 森林の維持・整備の拡大 ● 野生動物対策の強化 ● 自然とのふれあいの拡大 ● 生物多様性保全と社会経済活動の両立の進展 	<div>◎自然と調和したぐんま</div>	
<div>柱4</div> <div>安全・安心で快適な生活環境づくり</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 化学物質管理等の啓発の充実 ● 公害防止活動の加速化 ● 環境美化活動の参加者増 	<div>◎清潔で心地よい暮らしのぐんま</div>	

「群馬県環境基本計画2021-2030」中間見直し 取組の方向性と指標(KPI)の見直し

取組の方向性

横断的要素ごとの取組の方向性(仮)

ネット・ゼロ

- 柱1 ● 再生可能エネルギーの更なる活用
● 省エネルギー対策の推進
- 柱2 ● 資源の循環の質の向上
● 循環経済の持続性の強化
- 柱3 ● 林業・木材産業の充実による
健全な自然の再興と公益的機能の発揮
● 良質な自然共生社会の育成
- 柱4 ● 森林資源の適切な管理による洪水や
土砂災害などの災害リスクの軽減

サーキュラーエコノミー

- 柱1 ● ごみを資源やエネルギーとして利活用
経済モデルの構築
- 柱2 ● 5 R活動の充実
● 資源循環による経済成長の促進
● ごみ「ゼロ」
- 柱3 ● 天然資源の消費抑制
● 廃棄物の削減による生態系への
負荷軽減
- 柱4 ● 環境汚染や健康被害のリスクの低減
● 資源の地産地消による供給の安定化

ネイチャーポジティブ

- 柱1 ● 森林資源の適切管理による
二酸化炭素吸収量の増加
- 柱2 ● 第一次産業の活性化による
自然資本の健全な循環利用の実現
- 柱3 ● 外来生物の防除や野生動物対策の強化
● 生物多様性の恵みを活用した気候調整
やレクリエーション機能の発揮
- 柱4 ● 大気・水・食料の質を守ることによる
健全な生態系や生物多様性の保全

指標(KPI)の見直し

・施策の柱の下に、より具体的な事業テーマと指標を設定。指標の達成状況によって各柱の進捗管理を行うこととし、進捗管理に適したものになるよう指標を見直す